

2022年3月期 第3四半期決算(補足資料)

1. 2022年3月期第3四半期決算について

【決算短信 10 ページ】

(売上高)

- ・ 売上高は、456億5,900万円となり、前期比161億1,000万円(54.5%)の増収となりました。
- ・ 「試薬」は、369億9,800万円となり、前期比143億8,200万円(63.6%)の増収となりました。このうち、一般研究用試薬は、約209億円(前期156億円)、新型コロナウイルスPCR検査関連試薬は約160億円(前期70億円)となり、ともに前期実績を上回りました。一般研究用試薬は、コロナ禍前の成長ペース(年率7%)を取り戻しました。
- ・ 「受託」は、74億7,400万円となり、前期比18億9,800万円(34.0%)の増収となりました。再生医療等製品関連受託(ワクチン関連受託含む)、遺伝子解析・検査関連受託がともに増加しました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、341億円となり、前期比128億4,800万円(60.5%)の増益となりました。
- ・ 「試薬」の増収および「受託」の原価率低減などにより増益となりました。

(営業利益)

- ・ 研究開発費、人件費に積極的に投資したため、費用が増加しましたが、売上総利益の伸長が大きく、営業利益は、199億2,600万円、前期比111億3,400万円(126.7%)の増益となり、過去最高となりました。

2. 2022年3月期通期業績予想について

【決算短信 11 ページ】

(売上高)

- ・ 売上高は650億円と、前期比189億1,300万円(41.0%)の増収予想です。
- ・ 「試薬」は、522億1,300万円と、前期比170億2,300万円(48.4%)の増収予想です。このうち、一般研究用試薬は約292億円(前期221億円)、新型コロナウイルスPCR検査関連試薬は約230億円(前期130億円)と予想しています。
- ・ 「受託」は、112億8,300万円と予想しています。これは、前期比23億8,100万円(26.8%)の増収予想です。再生医療等製品関連受託、遺伝子解析・検査関連受託がともに増収予想です。再生医療等製品関連受託にはワクチン関連の製造受託を含んでいます。

(営業利益)

- ・ 営業利益は260億円、前期比120億4,700万円(86.3%)の増益を予想しています。

3. 業績予想および期末配当予想の修正(増配)について

【業績予想の修正および配当予想修正(増配)に関するお知らせ】

(前回予想比)

- ・ 前回予想(2021年11月9日)との比較では、売上高は57億円、営業利益、経常利益は60億円、親会社株主に帰属する当期純利益は44億円の上方修正となります。
- ・ 新型コロナウイルスPCR検査関連試薬および一般研究用試薬の売上高が前回予想を上回ることに加えて、売上構成の変化や生産稼働率の向上等により売上原価率がさらに低下することから、売上総利益、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても前回発表予想を上回る見込となりました。
- ・ 達成時は、売上高および各利益項目ともに、過去最高となります。また、営業利益は、13期連続増益となります。

(期末配当予想の修正)

- ・ 前回予想(2021年11月9日)の1株24円から6円増額し30円に修正します。前期からは、14円の増配、配当開始以来10期連続の増配となります。

※ 当社定時株主総会(2022年6月)付議予定

4. 新型コロナウイルス関連の事業状況について

- ・ PCR検査関連試薬の需要増に対し、日本および中国の製造体制を含むサプライチェーン全体を強化し、安定供給に努めています。今後、検査需要の変動などにより業績予想への影響が発生した場合には、適宜公表してまいります。

(参考:新型コロナウイルスPCR検査関連試薬)

連結売上高	第3四半期(累計)	通期
2021年3月期	70億円	130億円
2022年3月期	160億円	230億円(予想)
(参考)前回予想(11/9)	—	180億円

- ・ 分子疫学的調査では、変異株の遺伝子変異検出用の研究用試薬や全ゲノムシーケンス受託など、ニーズに応じた製品・サービスを迅速に開発し、安定供給に努めています。直近では、オミクロン株に特徴的な遺伝子変異を検出する試薬などを開発・発売しました。また、外部機関との共同研究により、下水試料を用いた新型コロナウイルスの遺伝子検出法の開発などを行いました。

- ・ 新型コロナウイルスワクチン関連では、引き続き、アンジェス株式会社をはじめ複数のワクチンプロジェクトに参加しています。また、VLP セラピューティクス・ジャパン合同会社が進めるレプリコン(次世代 mRNA)ワクチンの開発にも協力しています。

5. 遺伝子医療事業の進捗について

- ・ 大塚製薬株式会社との共同開発プロジェクトである NY-ESO-1・siTCR®遺伝子治療薬(開発コード TBI-1301)に関しては、引き続き両社で承認申請の準備を進めています。
- ・ 新規 CAR 遺伝子治療プロジェクトとして、既存の CAR 遺伝子治療の課題を解決するプロジェクトを進めています。このうち、活性化シグナル伝達領域を改良し、治療効果の持続性を高めた、いわゆる第4世代型 CAR 遺伝子治療である CD19・JAK/STAT・CAR 遺伝子治療プロジェクト(開発コード TBI-2001)については、準備が進み、本年3月中にカナダで治験を開始する見込みです。

6. 東京証券取引所・新市場区分「プライム市場」移行について

- ・ 当社は、かねてより「プライム市場」への移行を選択申請していましたが、2022年1月11日に、東京証券取引所から公表の通り、2022年4月4日に同市場に移行する予定です。

以上